

北九州市立大学防犯・防災プロジェクト (MATE's) (福岡県)

北九州市立大学防犯・防災プロジェクト (MATE's) は、平成22年10月、防犯活動に関心を持った大学生8名で結成しました。現在は28名で、週2、3回のミーティングや防犯活動を行っています。

それでは、大学生と行政の連携について説明します。

まず、MATE's という名前ですが、これは由来があります。「MATE」

は、仲間と言う意味です。それに「s」をつけて、それらをつなぐ。具体的には、北九州市や福岡県警察を始め、私たちは、このような「MATE」、たくさんの仲間によって支えられています。

その中で、北九州市と連携して行っているイベントがあります。最初に取り組んだことが、北九州市内の6大学の学生が一堂に会した「北九州市学生安全・安心ボランティア連絡会議」の開催でした。この交流により課題の解決等につながったことから、今度は全国規模で展開してみようということになり、今年1月には「全国学生安全・安心ボランティアサミット北九州」が開催されました。全国25大学、約80名が一堂に会し、サミットを行いました。もちろん連携している北九州市や福岡県警、佐賀県警もサポーターとして参加してもらいました。内容は、小グループでの討議やその結果発表、講師の先生による事後学習でした。例えば、人材確保について話し合いをしている1人の学生が、「人によって活動状況にバラツキがある」という発言をしたところ、「私のところも同じです」という共感を生み、また、「活動を継続することが大切だ」ということに気付いた学生もいたようです。このように行政と連携した全国的な活動ができたということは、大変意義があるものでした。

次に、犯罪機会論を使った活動「地域安全マップづくり」について説明します。私たちは活動をする中で、「人から環境に着目する防犯へ」ということにポイントを置いています。犯罪は、「犯罪企図者」「被害者」「犯行をしやすい環境」の3要素により発生することになります。従来の防犯であったら、主に、犯罪企図者、不審者に気をつけようというような活動がメインだったかと思うのですが、私たちはそうではなくて、犯行をしやすい環境に着目して、防犯活動を行おうということを中心に置きました。犯行をしやすい環境というのは、犯罪者にとって、その場所が犯罪を起こしやすいかどうかということです。犯罪者にとって犯行が行いやすい環境というのは、「犯罪者にとって入りやすい場所」「周りから見えにくい場所」になります。「入りやすく見えにくい」といった場所を、まず私たちが勉強して、地域安全マップづくりにおいて、被害者となってしまう可能性のある小学生に教えていくことで、犯罪の発生を抑えていこうとするのが、私たちが主に行って



いる地域安全マップづくりの趣旨です。平成 24 年度から地域安全マップづくりを実施しています。この地域安全マップづくりは小学生たちと一緒に勉強しながら実施していくのですが、その中で、より小学生たちと年齢の近い私たち大学生という立場、もしかしたらお兄さんお姉さんと同い年かもしれないような私たちが小学生たちと一緒に勉強していくことで、小学生たちがとっつきやすいのかなという気づきがありました。



地域安全マップづくりは、準備段階と当日の体験という 2 段階に分かれます。市役所と連携して、実施する小学校が決定した後、私たちがその小学校に出向き、周りの下見をし、安全な場所や危険な場所を見つけて、ルートを設定します。その後、配布資料の作成、小学校との打合せを経て、当日は事前学習、町歩き、マップづくり、発表を行います。町歩きでは、子供たち自身で、なぜこの場所が危険なのかについて考えてもらうようにしています。大学生の役割は、この場所は安全か危険かというきっかけの提供にすぎない程度に抑えています。町歩きから帰り、大きな模造紙にマップを作っていくのですが、子供たちはそのマップに基づいて発表していきます。この発表によりクラス全体で理解が深められるということになります。また、私たちが作成した資料を、最後の復習の時間に配布することで、1 日全体の流れの復習、理解の定着、さらに形として残るもの、自宅に持って帰った後の家庭での防犯力向上にも効果があるのではないかと考えております。このような地域安全マップづくりを通じて、子供たちからは「普段遊んでいるところが危険

だったので、ビックリしました」、「まず遊ぶ前に周りを見て、安全な場所なのか危険な場所なのかを確かめて遊ぶ」といった声もあり、私たちのポイントが子供たちに伝わっているのではないかと考えています。

次は、最後のトピック、SNSの活用、情報共有の点について説明します。まず、プロジェクトの発足当時はメンバーが少なかったこともあって、顔を合わせた定期的なミーティングが可能だったのですが、メンバーの増加、部活動やサークルとの兼ね合いがあり、なかなか顔を合わせたミーティングというものが難しくなりました。そこで、現在は、SNSを活用してメンバー間の情報共有を図っています。これは、情報を一斉送信したり、任意の時間で内容を確認できたりと、様々なメリットがあるので採用しました。また、その利用について、「メンバー全員に連絡するもの」、「年間を通して使用するもの」、「3か月以上使っていないもの」、「使用期間が短いもの」等に整理し、情報の集約と受ける側の利便性の向上に配慮しました。現在は、SNSを活用した情報共有により円滑な活動ができています。

最後になりますが、私たちがこのような活動ができているのも、連携先であります北九州市や福岡県警、受入先の皆様の御理解と御協力があってこそだと思います。今後は、活動の目的である「地域の防犯力向上」に、さらに努められるよう、もっと地域に入り込んだ活動を展開していきたいと考えています。



質疑応答

(質問者)

大学生の防犯ボランティア団体として、地域の自治会等で活動をされている防犯ボランティア団体の皆様に期待することとか、逆に自分たちからこのような連携をとっていききたいとか、何か思いはありますか。

(北九州市立大学防犯・防災プロジェクト (MATE's))

もっと積極的に活動するため、地域の方々との連携において、まずはお互いが「知ろう」という考えになることが大切なのかなと思います。

(質問者)

活動資金はどのように得ているのでしょうか。

(北九州市立大学防犯・防災プロジェクト (MATE's))

福岡県の防犯協会から、学生ボランティア団体として年間10万円の補助金をいただいております。